

2021  
JULY

No.32

# 鹿児島大学 同窓会連合会報



理学部のシンボル  
中庭の楠（クスノキ）

特別  
寄稿

- 《江口名誉会長追悼文》母校の「進取の精神」基金に貢献 …… 高嶺 欽一（造士館講座運営委員 元南日本新聞社）  
為御覧 薩州大隅蕎麦店東西秋冬巡業百撰 …… 原口 一陽（法文学部同窓会副会長・鹿児島大学特任専門員）  
ビートルズ「Let It Be」に思う …… 橋口 照人（医学部長）  
コロナ禍で遠隔授業が始まった …… 佐藤 友昭（歯学部同窓会副会長）  
鹿大ラグビー部、もうひとつの全国大会で準優勝 …… 吉村 秀清（鹿児島大学ラグビー部OB会東日本支部会長）

鹿児島大学同窓会連合会

# 鹿児島大学同窓会連合会会則

## 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

## 第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

## 第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
  - 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
  - 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
  - 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
  - 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

## 第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
  - (1) 役員を選任に関する事項
  - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
  - (3) 予算及び決算に関する事項
  - (4) 会則の改廃に関する事項
  - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
  - (1) 総会に付議すべき事項
  - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

## 第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

## 第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

# 第32号会報(令和3年7月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科を卒業・修了された11万人以上のOB、OGの皆様、昨年から続いている新型コロナウイルス感染拡大による不自由な環境の中、それぞれの国、地域および職場においてご活躍されていることと存じます。「鹿児島大学同窓会連合会」会長として心より敬意を表しますとともに、新型コロナウイルス感染症の早急な収束と平穏な生活の再来を心より望んでおります。

このような苦境が続く中、私たちの母校鹿児島大学におきましても、2年連続して卒業・修了式と入学式の式典は大幅に規模を縮小して実施されました(鹿大HP)。同窓会連合会としても、鹿児島大学入学式が挙行される週の土曜日午後に開催してきた「同窓会連合会総会」および各学部の卒業生の絆を深めるために総会に引き続き開催し、年々盛会になってきた懇親会「卒業生の夕べ」も、昨年度に引き続き中止にせざるを得ませんでした。また、同窓会連合会の日常的な活動の方針を決めてきた役員会、幹事会も対面での開催は1回しか行えず、他は書面審議によって行ってきました。さらに、これまで同窓会連合会が鹿児島大学とともに出席・近況を報告してきた「関東支部総会」や「福岡支部・北辰斜めの会」も延期または中止になりました。鹿児島大学が企画して令和2年の開始を目指した「鹿児島大学ホームカミングデー」も中止され、協力ができませんでした。しかし、このように対面での活動が縮小された中、同窓会連合会が全面的に協力して2016年から開催されてきた学生向けのキャリア支援セミナー「きばいやんせ鹿大生2020！」はオンラインで開催され、同窓会連合会としても引き続きバックアップしました。また、新型コロナ禍でアルバイトなどの経済的活動が制限され、学業の正常な継続が困難な学生・院生に対して鹿児島大学は「鹿児島大学修学支援事業基金」で支援を行い、同窓生からも一定の協力がなされました(同窓会連合会報No.30&31)。今後は、同窓会連合会として日常的に学生・院生をバックアップする活動ができないか模索していきたいものです。

「鹿児島大学同窓会連合会」が発足した平成17年から14年間の長きにわたり連合会会長を務めてこられた江口正純名誉会長(文理学部昭和34年卒)が令和3年2月20日に急逝されました。鹿児島大学同窓会連合会活動がここまで発展し、活動が活発になったのは江口さんの高潔な人格と熱意に由るものが大きく、感謝の気持ちは言葉には表せません。同窓生一同、心からご冥福をお祈りいたしたいものです。なお、江口名誉会長ご逝去に関する追悼文を法文学部同窓会がご寄稿なさっているのもそちらもお読みください。

私たちを取り巻く困難な状況が改善され、鹿児島大学同窓会連合会として卒業生および在学生の絆を取り戻す日が早急に戻ってくることを祈っております。

## 目 次

第32号の会報(令和3年7月発行)に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	7
特別寄稿 江口正純鹿児島大学同窓会連合会名誉会長を悼む	16
特別寄稿(法文学部、医学部、歯学部、ラグビー部OB会)	18

# 学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



鹿児島大学同窓会連合会の皆様方におかれましては、コロナ禍の中、お元気でお過ごしでしょうか。さて、この度は平成17年の鹿児島大学同窓会連合会の設立時から平成30年度までの14年間、初代会長としてご尽力されました江口正純様の訃報をお伝えせねばなりません。江口様は1959年に鹿児島大学文理学部をご卒業の後、南国殖産に入社され、建材部長や専務、副社長を経て1999年から2004年まで社長を務められ、その後は相談役としてご活躍されました。学生時代からソフトテニス選手としても活躍され、1993年から2014年まで県ソフトテニス連盟会長もお務めになりました。日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜っており、昨年6月には、コロナ禍を受けて生活要支援の状態にある学生を支援するため「鹿児島大学修学支援事業基金」へ「新型コロナウイルスの影響でアルバイト収入が減って困っている学生がいると聞いて心を痛めている。お世話になった母校の学生のために役立ててほしい。」との温かい言葉とともに多額のご寄付を頂きました。本年に入り急性リンパ性白血病のため今給黎総合病院、鹿児島大学病院、今村総合病院にて療養中でしたが、2月20日にお亡くなりになりました。江口様は鹿児島大学愛にあふれておられ、ご出身の法文学部の同窓会長を長らくお務めいただいたとともに、その他8つの学部の同窓会をまとめた同窓会連合会の設立ならびにその後の運営には並々ならぬご尽力をいただきました。朗らかで前向きな江口様ならではの働きをしてくださり、あの明るい笑顔で皆をまとめられたお姿が、今も多くの方々の目に浮かぶことであろうと思います。昨年おっしゃられた「鹿児島大学は地域にとってなくてはならない存在」の言葉を胸に留め置き、本学の運営にあたりたいと思っております。江口正純様のご厚情に心から感謝いたしますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

さて、鹿児島大学におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻な状況となってきた影響を受け、昨年に引き続き、令和3年3月25日には卒業式・修了式を、簡素な形で学内で挙行しました。学部卒業生1,931名、大学院修了生538名、そして卒業生・修了生をこれまで励まし支えてくださったご家族の方々には、残念な思いをさせたのではないかと思っております。また、4月7日には入学式を同様に簡素な形で学内にて行いました。今年度は、本学の9つの学部に1,918名、9つの大学院研究科に608名、総勢2,526名の新入生を迎えました。令和3年度の授業につきましては、感染拡大予防の徹底と学修機会の確保の両立を図ることを目的として、学生及び教職員の健康・安全面を考慮しながら、対面授業と遠隔授業のそれぞれの良い面を活かしたハイブリッド教育による授業を実施しています。昨年度の新学期は、授業開始も遅れ、共通教育等の多くの科目が遠隔授業で行われたため、新入生をはじめとした多くの学生がキャンパスにはいないという状況でキャンパス内の風景も人気の少ない寂しいものでした。今年度は外見からも高校生上がりと思われる新入生も含めてキャンパスで多くの学生を見かけるため、つくづく大学のキャンパスらしい姿に戻ってきたなあと感じています。しかし、大学構成員のPCR検査数も日増しに増え、気を抜けない日々を送っている今日此の頃です。しぶといコロナウイルスとの闘いがまだまだ続くと思われ、WithコロナやPostコロナを語れるのは、まだ先の話になりそうです。今後とも皆様の健康が維持されていることを祈りまして、また、今後ともご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。筆を置きたいと思えます。

# 鹿児島大学の近況

## －進取の気風あふれる総合大学－

(2020年11月から2021年4月までのトピックス)

### ○『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会第6回役員会を開催（11月4日）

11月4日、『鹿大「進取の精神」支援基金』支援会の第6回役員会が開催されました。この支援会は、鹿児島県内の経済関係5団体、医療関係5団体、農水産業関係2団体、金融関係1団体、同窓会連合会の14団体の長により構成されており、鹿大「進取の精神」支援基金の募金活動のご支援をはじめ、本基金による実施事業に関する助言や協力をいただいております。

本支援会の役員会は、最低年1回開催され、鹿児島大学から基金の募金状況や基金による事業報告及び事業計画などについて説明の後、役員による意見交換を行っております。

今回の役員会では、本支援会の会長である岩崎芳太郎鹿児島県商工会議所連合会会長による開会挨拶の後、「基金の資金計画及び募金状況」「令和元年度事業報告及び令和2年度事業計画」「基金による過去4年間の事業成果」「今後の事業展開」について協議が行われました。協議の後、佐野輝学長から鹿児島大学の現状と取組について報告があり、「令和元年度から令和2年度の公式行事やその他のニュース」「新型コロナウイルス感染症への対応状況や学生への経済支援の状況」「学長所信表明に対する業務実績」などについて、詳細な説明がありました。

基金事業の今後の更なる発展に向けて、基金の現状や今後の事業展開、さらに鹿児島大学の全体的な状況について、役員の皆様理解を深めていただく機会となりました。

### ○加藤太郎助教らの研究チームが1億年前のホタルの光を再現することに成功（12月3日）

理工学研究科の加藤太郎助教と中部大学応用生物学部の大場裕一教授と長浜バイオ大学バイオサイエンス学部の白井剛教授の共同チームは、計算科学と分子生物学的手法を駆使し、世界で初めて白亜紀の最初のホタルの発光の再現に成功しました。今回の成果は日本時間12月3日（木）午前4時、米国科学振興協会（AAAS）が発行する科学誌サイエンス・アドバンシズ（電子版）に掲載されました。

ホタル科の昆虫は、約1億年前ころに地球上に現れ、そのときにはすでに発光する能力を持っていたと考えられます。ただし、化石記録などからは当時どのような発光色で発光していたのかはわかりません。そこで1億年前のホタルがもっていた発光酵素（ルシフェラーゼ）を計算科学と遺伝子工学により推定復元させ、その復元したルシフェラーゼを発光物質（ルシフェリン）と反応させたところ、現在見られるゲンジボタルやヘイケボタルの黄緑色の発光とは異なる、深い緑色の発光が再現されました。深い緑色の発光には、外敵に対する防御のための効果があったと考えられます。つまり本成果は、失われた過去の光景の一部を現実に甦らせた世界最初の報告であると言えます。

### ○在京都フランス総領事が来学されました（12月14日）

12月14日、在京都フランス総領事館よりジュール・イルマン総領事が来学され、佐野輝学長及び馬場昌範理事（研究・国際担当）を表敬訪問されました。イルマン総領事は2019年9月に在京都フランス総領事に着任され、鹿児島への訪問は着任後初めてのこと。

表敬訪問では、佐野学長が歓迎の挨拶を述べた後、本学とフランスの交流協定校との交流実績を報告するとともに、研究者・学生交流の重要性や、今後も引き続きフランスと本学が交流を継続していくこと等を確認しました。また佐野学長は、記念品として総領事に大島紬の名刺入れを贈呈しました。

なお、表敬訪問に先立ち、フランスの協定校のコンタクトパーソンとなっている教員やフランス語を教えている教員が、フランスと本学の今後の発展の可能性に関する意見交換会を実施しました。出席したのは、梁川英俊教授（法文学部）、前田晶子教授（教育学部）、神崎亮准教授（理工学研究科（理学系））、二村淳子講師（共通教育センター）の4名です。教員からは、広く社会で活躍する人材を育成するために、海外に出て学ぶことが重要であること、そのために今後も本学での語学教育やフランスとの交流事業の継続、さらなる拡充が必要であること等の意見がありました。

今回の在京都フランス総領事による本学訪問は、本学について理解を深めていただくと同時に、本学にとってもフランスの情報を得る良い機会となりました。

### ○第10回食と健康に関するシンポジウム「食と健康で創る！鹿児島の新たな成長産業」を開催（2月1日）

2月1日、鹿児島県工業倶楽部と共同で「第10回食と健康に関するシンポジウム」を開催しました。

本年度のテーマは「食と健康で創る！鹿児島の新たな成長産業」、鹿児島県工業倶楽部の創立30周年記念事業の一環として城山ホテル鹿児島で行われ、企業関係者や一般市民など約160名が参加しました。

主催者を代表しての、佐野輝鹿児島大学長と岩元正孝鹿児島県工業倶楽部会長による挨拶の後、塩田康一鹿児島県知事による基調講演が行われました。塩田知事は、農業生産額全国2位を誇りながら、農家所得が最下位である鹿児島県の現状から、生産物の付加価値を上げ、生産性を向上する必要性を強調。本学の研究成果がブームを呼んだ桜島大根の例や、AI、ICT技術の活用によるスマート農業の推進等を支援する県の取り組み等を紹介しました。

続いて、堀内正久鹿児島大学医歯学総合研究科教授が、効果的な食べ合わせ「食材連携」について講演、鹿児島の食産業と働く女性を支援する方策として「高校給食」を提案しました。磯田博子筑波大学生命環境系教授の講演はオンラインで行われ、構築する食資源の機能性評価システムによる国内外との共同研究、鹿児島のムラサキイモの抗老化機能の実験成果などが披露されました。

### ○鹿児島大学と日本航空株式会社、日本エアコミューター株式会社が包括連携に関する協定を締結（3月16日）

3月16日、鹿児島大学事務局4階特別会議室にて、鹿児島大学と日本航空株式会社、日本エアコミューター株式会社は、包括連携に関する協定を締結しました。

本協定は、2020年10月に締結した「地域密着型パイロット人財の創出を目指す連携協力協定」に続き、三者の人的・知的資源の交流と活用を図りながら、教育、研究等の分野において相互に連携・協力し地域社会の振興と発展に資するとともに、教養豊かな国際人材育成に寄与することを目的としたもの。締結式では、本学佐野輝学長と日本航空株式会社平井登九州・山口地区支配人、日本エアコミューター株式会社越智健一郎社長が協定書へ署名、その後それぞれから挨拶があり、教育・地域貢献・国際交流の事業において三者が力をあわせ教育、研究および文化の発展を目指すこと、地域社会の貢献を目指していくことなどが発表されました。

今後、本協定により、幅広い分野で連携協力しながら、地域活性化の資する取組を推進していくこととしております。

### ○令和2年度卒業式・修了式を挙行～ご卒業・修了おめでとうございます！～（3月25日）

3月25日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和2年度卒業式・修了式を挙行しました。今年度の卒業・修了生は、学部卒業生1,931名、大学院修了生538名の計2,469名。

今年度は昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学内において各学部及び各研究科の各課程の代表者が出席の下、規模を大幅に縮小し、実施。また、ご来場いただけない卒業生・修了生、新入生及びご家族の皆さまのために、式典の様子をYouTube鹿児島大学公式チャンネルによりライブ配信を行いました。

式では、佐野輝学長が、各学部からの代表者9名、各修士課程・各博士課程からの代表者13名、計22名に学位記を授与しました。続いて、佐野学長は告辞の中で、本学を卒業する2,469名への祝意と、学生をこれまで支え励ましてくださったご家族の皆様への謝意を述べるとともに、卒業後も真のグローバル人材として羽ばたいてほしいと願いを込め、また、コロナ禍における学生への支援として実施した「鹿児島大学稲盛和夫基金」をはじめ数多くの支援に対する関係者へ謝辞が述べられ、本学の名誉教授である中村晋也先生が制作した「若き薩摩の群像（鹿児島中央駅前に設置）」や本学の「進取の気風広場」に設置された稲盛和夫名誉博士の銘文を紹介し、卒業後も日本および国際社会の様々な課題に果敢に挑戦し、世界の平和と繁栄のために役割を果たしてほしいと激励しました。

最後に、篠崎葵さん（理学部3年）による在学生総代送辞、桑原芽美さん（水産学部4年）による卒業生総代答辞が行われ、式は厳かに終了しました。

本学を卒業・修了される皆様、本当におめでとうございます。これから、社会を力強く牽引するリーダーとして活躍・大成されることを期待しております。

### ○災害時の歯科医療支援活動に関する協定を締結（3月25日）

3月25日、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科、鹿児島大学病院、鹿児島県歯科医師会は、災害時の歯科医療支援活動に関する協定を締結しました。

本協定は、鹿児島県地域防災計画に基づく歯科医療救護活動や身元確認活動を行う際に協力することを目的

としたもの。調印式では、於保孝彦鹿児島大学医歯学総合研究科長、坂本泰二鹿児島大学病院長、伊地知博史鹿児島県歯科医師会会長が協定書への署名を行い、伊地知会長から、「昨今、関係機関が連携して災害支援を行うことの重要性がますます高まっている。今後3機関の絆を土台として支援活動を進化させていきたい。」と期待が述べられました。続いて、於保研究科長が、「この協定締結を機に、災害時はもちろんのこと、平時における研修や訓練を含めて一層の協力関係を構築し、県民への歯科医療支援における重要な役割と責任を果たしたい。」と意欲を語り、坂本病院長が、「熊本地震におけるJMAT派遣等の協力実績を経て今回の協定締結に至った。本協定は、大学病院と鹿児島県歯科医師会の連携体制の礎となるものであり、今後とも双方で社会の役に立つ災害医療を行っていききたい。」と抱負を述べました。

本協定締結により、震災や豪雨等の災害が発生した場合、鹿児島県歯科医師会の要請を受け、同会が行う歯科医療救護活動及び身元確認活動に歯科医師等を派遣することとなり、3機関の連携・協力により、災害時における歯科医療支援活動の一層の充実が期待されます。

### ○令和3年度入学式を挙行～ご入学おめでとうございます～（4月7日）

4月7日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和3年度入学式を挙行しました。今年度の入学生は、学部入学生1,918名、大学院入学生608名の計2,526名です。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学内において各学部及び各研究科の各課程の代表者が出席の下、規模を縮小し、実施。また、ご来場いただけない入学生及びご家族の皆さまのために、式典の様子をYouTube鹿児島大学公式チャンネルでライブ配信しました。

式では、佐野輝学長による入学許可の後、学部と大学院それぞれを代表し、池袋日香莉さん（水産学部）とMOHAMMAD FARID RATMANさん（大学院医歯学総合研究科）の2名が入学生宣誓を行いました。

続いて佐野学長は告辞で、入学生に祝意を表するとともに、現在人類にとって大きな試練となっている新型コロナウイルス感染症に触れ、「『知の力』をもって地球レベルの困難に立ち向かう人材として育ててほしい」と述べるとともに、「将来、鹿児島の地でそして鹿児島大学で学んだことに自信と誇りを持てるよう、鹿大生として充実した日々を送ることができるよう願っています。夢を持ち、実現に向けて努力を行い、鹿児島から世界に羽ばたいてください。」とエールを贈りました。

入学生宣誓を行った池袋さんは、「これから一緒に勉強する同級生と入学式に出られなかったのは寂しいですが、入学式を開催していただいたことに感謝したいです。」と述べました。

新入生の皆さん、ご入学まことにおめでとうございます。皆さんがこれから鹿児島大学で自らをいっそう鍛え、大きく成長されますことを教職員一同願っています。

### ○教員の受賞等

- ①国際島嶼教育研究センターの藤井琢磨特任助教が、日本サンゴ礁学会第23回大会（オンライン大会）において、一般社団法人日本サンゴ礁学会の若手奨励賞に位置づけられる「日本サンゴ礁学会川口奨励賞（受賞研究課題：琉球列島におけるスナギンチャク目等底生生物の多様性解明）」を受賞（11月23日）
- ②牧野暁世特任助教（キャリア形成支援センター）と三井ホーム鹿児島株式会社が共同研究開発した、鹿児島カラー「かごんまの色®」を採用した鹿児島モデルハウス「LANGLEY（ラングレー）」が、グッド・ペインティング・カラー委員会（構成団体：日塗工、日塗商、日塗装）主催の「第23回 グッド・ペインティング・カラー」内装部門において最優秀賞を受賞（1月29日）
- ③工学部の鷹野敦准教授が令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞（4月28日）

### ○学生の表彰等

- ①第38回吉井淳二記念大賞展（鹿児島県曾於市、曾於市教育委員会主催）において、教育学部美術専修3年の前門琴音さんがKKB鹿児島放送賞を、大学院教育学研究科1年の花里佳奈さんが秀作賞を受賞（2月22日）
- ②学生柔道大会「第17回 KOBE 自他共栄CUP」において、医学部医学科4年で柔道部に所属する上田怜さんが、自他共栄賞「最優秀賞」を受賞（4月13日）

〈以上、鹿児島大学ホームページから転載〉

## 鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

## リサイクル募金のご案内

鹿児島大学リサイクル募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

鹿児島大学リサイクル募金 Web サイト <https://lp.kishapon.com/kagoshima-u/>

## 遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介します。提携銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携銀行へ直接お問い合わせください。

遺贈によるご寄附 Web サイト <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/at1353/izou.html>

### 【提携銀行（五十音順）】

鹿児島銀行 営業統括部（信託チーム）／みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店

## 税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

### お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課

広報・渉外室 基金・渉外係

TEL 099-285-3101 / FAX 099-285-3854

E-mail [s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp](mailto:s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp)



# 各学部同窓会活動報告

## 法文学部同窓会

### 1. 令和2年度（第13回）法文学部同窓会表彰式

令和3年3月24日（水）法文学部同窓会表彰式を法文学部2号館4階の法経社会学科会議室で行いました。今年度も新型コロナウイルスの関係で同窓会入会式及び送別会・卒業祝賀パーティが中止になったことから、表彰式のみ行なったものです。

仮屋同窓会長から以下の4名の方に表彰状と記念品が贈られました。その後、仮屋同窓会長と松田学部長からお祝いの言葉がありました。

① 大学院人文社会科学専攻 法学専攻 宮脇 由羽さん

鹿児島大学法文学部に在籍時から税理士試験に取り組んでおり、学部4年次「簿記論」「財務諸表論」という税理士試験会計科目に合格し、令和2年12月に「消費税法」に合格したことで税理士資格を取得しました。

② 経済情報学科 平川 陽さん

鹿児島大学柔道部に所属し、多くの競技会で高成績を収めてきました。また、留学先の韓国・釜山大学では柔道部のコーチとして指導にあたり国際交流にも貢献しました。柔道総本山の講道館からは、この国際交流による社会貢献を高く評価され、自他共栄賞が贈られました。

③ 法経社会学科法学コース 堅島 敢太郎さん ④ 法経社会学科法学コース 栗田 尚弥さん

二人は4年間、鹿児島大学ラグビー部の中心的存在として活躍しました。令和3年1月に開催された第71回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会においては、レギュラーとして出場し、決勝で大阪体育大学に敗れたものの、準優勝に輝きました。



### 2. 第16回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ

令和3年2月27日（土）第16回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。当日は冷たい北風の強風の中、15組52名の参加で同窓生の絆も深まりました。優勝は平成元年卒の清永裕介さんでした。成績は以下のとおりです。

優勝	清永 裕介（H元年、法文学部法学科卒）	ネット	74.4
2位	松田 武泰（H13年、大学院修了）	ネット	74.8
3位	小林 信定（H元年、法文学部経済学科卒）	ネット	75.2
4位	中野 寿康（S56年、理学部卒）	ネット	75.2
5位	諸富 一則（S57年、法文学部法学科卒）	ネット	75.4
ベストグロス	西堂路健一（S36年、文理学部心理卒）	グロス	84

## 新型コロナウイルスに翻弄された同窓会活動

令和2年度以降、同窓会活動は新型コロナウイルス感染拡大が繰り返したために計画通り出来たものはほとんど無く、残念な思いである。

令和2年度は、恒例の総会・懇親会が中止になると共に教育学部伝統の「鹿児島の教育を語る会」までも中止となった。この会は学生諸君とOBの先輩たちがグループに分かれて、それぞれテーマごとに親しく語り、懇親会まで持つというとても有意義なものである。

幸い広報部の活動だけは、例年通り健在で、11月には充実した会報「鹿児島大学教育学部同窓会会報」を発行できたのはよかった。

令和3年度は、東寛治会長を中心に、今年こそはと張り切って出発したが、今年度もコロナウイルスに出鼻をくじかれ、総会・懇親会の開催を困難として、現在紙面会議による作業を進めている最中である。本年度の計画案はあるが、まだ総会の承認をえていないので、昨年度の「同窓会運営基本方針」を、参考として掲載します。

### 令和2年度 同窓会運営基本方針

教育学部同窓会は、平成10年に発足して今年22周年を迎えた。鹿児島大学教育学部の沿革をたどれば、1875(明治8)年に始まり145年の年輪を刻む。鹿児島大学の中で本学部は最も長い歴史に支えられている学部として、2万余人の卒業生を擁する同窓会である。

本会は、会員相互の親睦、鹿児島大学及び本学部の発展と本県教育の振興を図ることを目的にして、今日的課題をとらえ活動してきている。

本年も、さらに組織の拡充・活性化・在学生への支援、各地域の教育力の涵養、鹿児島大学同窓会連合会との連携に努め、以下の活動を推進する。

#### ◇ 重点事項 ◇

- 1 組織の充実のために、各役員及び会員の積極的な参加を推進する。
- 2 学年会員同士の絆を強めるために、支部、学年ごとの同窓会の充実を図り、さらに県外在住同窓生の組織化のあり方を検討する。
- 3 会の運営を充実するために、総務、研修、広報の専門部活動の活性化を図る。
- 4 「鹿児島の教育を語る会」活動等を通して、「進取の気風」にあふれる在学生の育成に努め、会員との交流を深める。
- 5 卒業後の進路が多岐にわたる状況を考慮し、在学生への支援に努める。
- 6 鹿児島大学及び鹿児島大学教育学部が行う国際交流活動の支援に努める。
- 7 「人材活用事業(地域の諸指導、生涯学習等)」の周知を図り、その推進に努める。
- 8 会費納入奨励月間を設けて、会費未納者への会費納入を勧める。また、運営協力金への協力依頼を行い、財政基盤の強化を図る。

## 理学部同窓会南明会活動報告

理学部同窓会南明会  
副会長 内海 俊樹  
(昭和57年生物学科卒)

すべてのニュース番組が、新型コロナウイルスの話題から始まるようになって、どのくらいの時が経ったのでしょうか。ワクチンの接種が始まり、一時は長いトンネルの出口が見えてきたかと期待しましたが、なかなかそう簡単には出口にたどり着けそうにありません。南明会の活動も、大きく制限されたままです。幹事会はオンライン開催、あるいは、メール会議となりましたし、昨年開催予定だった2年に一度の総会も、感染拡大防止の観点から開催を見送ることとなりました。令和2年度の卒業式も、昨年に引き続いて中止されましたし、大学にとっては、最も重要なセレモニーがこれまで通りのやり方では実施できないということで、なんとも心のけじめがつかないまま、令和3年度の新入生を迎えました。卒業式、あるいは、入学式のようなセレモニーを実施できないのは、同窓会にとっても命取り同然です。同窓会の存在をアピールしてその重要性を再認識してもらう機会がなくなってしまう、今後の活動にも大きな影を落とすのではないかと危惧しています。しかし、嘆いてばかりはいられません。南明会では、同窓会活動について理解を深めてもらうことを目的としたビデオコンテンツを製作し、新入生オリエンテーション、そして、新入生のご家族を対象とした「保護者の集い」で視聴いただきました。MBCの財津三奈さんにリポーターとして登場頂いた11分30秒の動画の内容は、およそ次の通りです。寮歌「北辰斜めにさすところ」が流れる中、七高生の写真などを背景に理学部の沿革や「南明会」の名称の由来などの説明があります。続いて、理学部賞受賞学生のインタビューなどを通して、南明会が取り組む事業や在学生の支援における役割を紹介しています。最後の部分では、本学で教員として活躍する4名の卒業生が、それぞれの経験を踏まえて南明会の魅力を伝えるという構成になっています。分かりやすく、無駄のない仕上がりとなり、南明会の活動について、十分にご理解いただけるビデオコンテンツになりました。

さて、本号の表紙写真は、南明会が担当ということで、理学部1号館中庭の「楠」を取り上げました。本学共通教育センターの富山清升 副センター長（昭和58年卒・生物学）に由来を尋ねたところ、「中庭の楠は、芳樟（学名*Cinnamomum camphora* Sieb var. *nominale* Hayata）という変種で、専売公社（現・鹿児島市立病院）に多数植栽されていた中の1本を樹種サンプルとしてもらい受け、リアカーに積んで学生たちと一緒に運んできた。」と東四郎先生\*から伺ったことがあるとのことでした。理学部1号館改築の際には、切り倒す案もあったそうですが、先生方の反対により保全されました。人目につきにくいところに佇みながらも、息苦しい日々の中に薫風を届けてくれる貴重な存在です。これからも、大切に守っていかなければなりません。

\*本学名誉教授・東四郎先生におかれましては、令和3年4月27日に永眠されました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

\*理学部同窓会紹介ビデオのURL（QRコードでもご利用いただけます）

<https://drive.google.com/file/d/1E-OwT3OMYnbgMIVGzMwS7Y4WSU0Hh7Wb/view?usp=sharing>



## 医学部同窓会

### 医学科同窓会鶴陵会

## 鹿児島大学OBゴルフ大会を開催しよう!!

同窓会連合会会報の記事も同窓会自体の活動が停滞しているために、新たな活動もなく報告すべき事柄もありません。新型コロナウイルス感染の拡大防止にはマスク、手洗い、3密回避、会食・会合の中止、等があげられています。そのため同窓会の年次総会や懇親会は軒並み中止もしくは書面会議に変更になりました。

昨年、今年とOBゴルフ大会も中止になりましたが、一方で、ゴルフほど三密を避け新型コロナウイルスの感染対策を実施しながら行えるスポーツはないといわれています。一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会および公益社団法人日本パブリックゴルフ協会は2021年2月5日に「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」を改訂しています。ここでは、ゴルフプレーは「健康維持のための運動」の一つとして、「不要不急の外出に該当しない」ことから、緊急事態特別措置法に基づく自粛要請対象には入っていないことを述べ、業界としては業種別感染防止ガイドラインを遵守した上で、運動・スポーツの機会提供を行うように求めています。外出の自粛が続き、屋内で過ごす時間が長くなると、運動不足やストレスから心身に悪影響をきたし、健康二次被害の問題が生じる可能性があります。身体的及び精神的な健康を維持する上では運動・スポーツは、心身の健康増進に大きな役割を果たしています。このようなことからOBゴルフ大会を開催してもよいのではないかと考える次第です。もちろん、来年4月の開催時期に新型コロナウイルス感染が終息し、日常生活が戻ってくれば、通常通りのOBゴルフ大会は実施できるでしょう。もし、まだ終息がみられなければ密を避けるためには開会式、閉会式、表彰式は実施せず、参加者は粛々と参加し、終了後は早く引き上げることでOBゴルフ大会は開催できるのではないかと考える次第です。表彰・賞品配布のやり方については検討する必要があります。

(文責：医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松英夫)

### 保健学科同窓会

今春の新年度は、昨年同様、いえ昨年より悪い雰囲気のままのスタートとなりました。COVID-19の大流行による影響は今年も残り、家庭や、職場、地域において活気が失われていると感じます。

昨年度は、鹿児島県でのCOVID-19の流行状況に応じて、学生さんの臨床実習が制限され教育分野でも影響がでました。当院へ就職してきた新入職員で臨床実習を経験していない者がおり、その影響の大きさを感じる次第です。また今年度の長期実習も変異型の猛威の前になかなか感染者減少の目処がつかず、臨床実習が昨年度よりもひどい状況に追い込まれています。

そのような中、現役生を助けるべく卒業生が同窓会として現役生に何かできないかと議案を提出してくれました。現役生は、実習機会の損失による学習機会の損失だけでなくアルバイトの制約もあり金銭面でも苦しい思いをしていることを鑑み、同窓会としてどのようなサポートができるか話し合いを始めました。我々ができることはささやかなことかもしれませんが、我々の支援を通じ日々閉塞感を感じている現役生たちが少しでも明るい気持ちをもって、日々の苦境に立ち向かってもらえれば幸いです。

最後になりますが、COVID-19により命を落とした方へ心よりご冥福を祈るとともに、今なおCOVID-19に立ち向かっていらっしゃるすべての医療従事者に感謝申し上げます。

(文責：保健学科同窓会理学療法学専攻部会 会長 宮崎雅司)

## 歯学部同窓会

### 令和2年度 11月以降の歯学部同窓会状況

#### ○理事会の開催状況

令和2年 10月2日 19:30～ZoomによるWeb会議

令和2年 11月11日 19:30～ZoomによるWeb会議

令和3年 1月20日 20:00～鹿児島県歯科医師会館

#### ○進路相談会・・・5年生、臨床研修医対象

\*これまでのビデオ撮影を On demand にて学生に見てもらった。

#### ○11月21日(土)総会、学術講演会、懇親会 鹿児島サンロイヤルホテルにて

・学術講演は同窓会奨励賞受賞者(山下 薫先生)講演時間:25分、総会開始時刻は16時

#### ○同窓会賞選考:受賞者 伊地知 南海(いぢち みなみ) 令和2年度卒業

#### ○3月25日(謝恩会、学位記授与式中止)

#### ○退官教授最終講義と記念式(3月5日～鶴陵会館)

…仙波 伊知郎 教授

#### ○3月 第二回評議員会

\*歯学部同窓会の令和2年の活動状況は、上記の様に、リモート会議、リモート配信、行事中止の連続でした。対面で行えたのは、総会・学術講演会・懇親会と退官教授最終講義記念式です。対面開催に関しては、感染対策の徹底、人数制限を皆で話し合い、できるだけソーシャルディスタンスの維持を確保するための会場探し、会場設定等、本当に気を使ったものでありました。皆様のお陰で例年通り、受賞者を選出できたことに感謝申し上げます。また、2年連続で学位授与式が中止になったことは、同窓会としても残念な思いで一杯でした。

(文責:歯学部同窓会副会長 佐藤友昭)



令和2年度同窓会奨励賞受賞者山下薫先生  
(左)と村上慎一郎同窓会長(右)

### 工学部創立75周年記念式典

鹿児島大学工学部は2020年に創立75周年を迎えた。6つの事業が企画され、それぞれに小委員会が発足して活動を続けてきた。工学部同窓会もこれに協力すべく、期成会を発足して募金の中心となって活動してきた。その結果、目標とする7千万円には届かなかったものの、約2千万円を集金するに至った。この寄付金額とコロナ禍を考慮して、当初の諸事業を見直し、記念式典と記念講演会を併せて稲盛会館にて挙行することとなり、4月24日（土）に開催された。

記念式典は記念式典小委員会委員長の門川淳一氏（化学生命工学PG教授）の開会の辞により12:30に開始され、まず記念事業委員会委員長木下英二氏（工学部長、機械工学PG教授）から次のような挨拶があった。「鹿児島大学工学部は故岩崎與八郎氏による鹿児島県工学教育へのご寄附を契機として1945年県立工業専門学校として発足し、時代と共に発展し、2020年で創立75周年を迎えた。これまで地域や我が国の教育・研究・社会活動へ大きく寄与し、卒業生も20,000人を越え、その中には稲盛和夫氏（京セラ株式会社名誉会長）など、ご活躍の卒業生も多い。社会変革が進み、大学改革が求められるなか、工学部はイノベーション人材育成に対応するため2020年度に7学科から2学科へ改組し、融合教育・研究や6年一貫教育など、幅広い視野を育てる実践的教育を実現した。鹿児島大学工学部は本地域の知の拠点として重要であり、創立75周年は今後の旗揚げ会とも位置付けられよう。今後も継続的に改革し、地域や国際社会に貢献していきたい。関係各位へ感謝申し上げます。」



木下 英二氏



渡邊 陸氏

続いて、工学部同窓会会長宮城泰児氏（日本ガス住設（株）常務取締役、建築工学科S58卒）から次のような挨拶があった。「工学部および工学部同窓会諸氏へご支援ご協力に対して御礼申し上げます。工学部同窓会は1948年に設立され、現在5部会とその支部から成り、活発に活動している。創立75周年に際して前会長松永洋文氏（大日本コンサルタント（株）技術部長、海洋土木工学科S52卒）を会長として期成会を立ち上げ、各部会の会長および支部長をそのメンバーとして寄付活動を実施し、約2千万円を集金するに至った。皆様に御礼申し上げます。主要事業である『工学研究・海外派遣等助成』等へ有効に使用していただき、工学部が更に発展することを期待したい。」



宮城 泰児氏

最後に、実行委員会委員長渡邊陸氏（情報・生体工学PG教授）から、次のような挨拶があった。「創立75周年の基本方針について松永洋文氏等と相談して以来、集中して業務を進め、無事にこの日を迎えられてうれしく思うとともに、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。会場には創立50周年当時の工学部長前田明夫氏（鹿児島大学名誉教授）にご臨席いただいているが、この75周年が次の100周年への懸け橋となることを期待している。」挨拶の最後に、各小委員会委員および関係事務職員諸氏を紹介して、その労に対して感謝が述べられた。



来賓者 於 稲盛会館

3氏の挨拶の後にムービーが上映された：これまでの委員会活動・打ち合わせの様子、過去（45年前、25年前）から現在までの学科棟の変遷、記念建造物（工学部マーク、総合研究棟、工場、稲盛会館（1994、稲盛和夫氏寄贈、安藤忠雄氏設計）、稲盛記念館（2018、稲盛和夫氏寄贈）、貢献者の像（梶島二郎氏（工専初代校長）、岩崎與八郎氏（工専設立へ寄付））、歴代の工学部長、高額寄付者の記念銘板の様子、など。

以上をもって13:10、記念式典が終了した。

（文責 吉留俊史 S60応化卒）

# 農学部あらた同窓会

## 「あらた同窓会会報・令和3年春季号」を発行しました。

「鹿児島大学農学部あらた同窓会」では、令和2年度は「新型コロナウイルス感染拡大によるパンデミック」の影響で活動が大幅に制限された中、11月23日に学生向け会報である「あらた同窓会報令和2年秋季号」を発行したのに続いて、今年3月25日には「令和3年春季号」を発行しました。例年の春季号には各支部等からご寄稿いただいた「支部便り」や「クラス会・グループ便り」を掲載し、全国の同窓生に各支部の活動をお知らせしてきましたが、令和2年度は各支部総会、クラス会等はほぼ全て中止になりました。そこで、例年ご寄稿いただいている「あらた同窓会長の巻頭言」、「農学部長のご挨拶」、「定年退職される先生方のご挨拶」、「学生便り（卒業・修了にあたって）」に加え、学内幹事会での賛同を得て

急きょ「あらた同窓会役員」や各支部事務局を通して「会員のエッセー」のご寄稿をお願いして、会員の近況や思い出等を同窓生にお知らせすることにしました。その結果、役員および会員からの様々なご寄稿が多数寄せられ、表紙を含めて38ページの会報が発行できました。これは例年よりかなり多い記事数であり、あらた同窓会会員の皆様に感謝申し上げます。なお、「会員のエッセー」については今後もご寄稿を募ることにいたしました。

この春季号は農学部の学生・院生、教員の他、80歳以上の会員および終身会員（現在はこの制度はありません）、過去5年以内に会費納入をいただいている会員に加えて「会費納入の無い昭和41年から5年ごとの卒業生で住所が判明している会員」に郵送いたしました。

なお、令和3年春季号の目次を右に示しました。内容などの詳細はあらた同窓会HP <http://aratadousokai.org/> にアップしましたのでご覧ください。

また、鹿児島大学農学部あらた同窓会Facebookへのご投稿も歓迎いたします。

（文責：農学部あらた同窓会事務局）



## 目 次

1. 巻頭言	2
新型コロナウイルス禍の中でも、創造力を身につける学びを	藤田 晋輔
2. 学部長挨拶	3
鹿児島大学でのコロナ感染拡大防止対策と近況について	橋本 文雄
3. 定年退職者挨拶	4
巡る水に夢をのせて	梶井 和明
鹿児島大学での教員生活をふりかえって	芝山 道郎
4. 副会長・会計監査委員の寄稿	6
「新型コロナウイルス感染症」禍での同窓会活動について思う	冨永 茂人
2020年を振り返って（80才、コロナとは？ 民主主義とは？）	浮津 謙
新たな出会いを求めて	佐野 岩男
恩師の言葉	菊川 明
5. 支部からの寄稿（エッセーなど）	8
半世紀ぶりの同期会	吉村 秀浩
中国・辺境の道の思い出（コロナ禍の今振り返る）	藤岡 悦治
山本稔顧問（前会長）の追憶	柳田 興平
静岡県知事感謝状に輝く！	岩崎 健生
静岡県知事表彰にあたって	野口 英昭
佐賀あらた会現役会を開催	具原 洋平
第3の「輝るい人生」を南国種子島で過ごす	水井 定明
社会人になって	長田 昶里
対沖繩ミカン貿易が「あらた会」先陣方の助力で魅る	八幡 正則
農業土木の最前線	吉嶺 彰二
「福岡ソフトバンクホークス・イチ押し」～「4年連続日本一」に寄せて～	鮎坂 明彦
退職後1年 何こともほどほどが一番	熊本 修
在宅勤務と遠隔管理	福山 誠
鹿児島生活6年目を迎えて	眞茅 拓実
6. 学生便り（卒業・修了にあたって）	20
吹奏楽と共にあった4年間	農業生産科学科 食料農業経済学コース 岩田 梨奈
大学4年を振り返って	農業生産科学科 応用植物科学コース 藤本 水緒
鹿児島での2年間	農林水産学研究所 食品創成科学専攻 焼酎発酵・微生物科学コース 小橋 有輝
激動の4年間	食料生命科学科 食品機能科学コース 樋口 千紘
4年間の大学生活	農林環境科学科 地域環境システム学コース 上田 竣也
石橋は叫びまくって渡るべし	農林水産学研究所 農林資源科学専攻 森林科学コース 森部 民志
学び続ける人生にしたい	国際食料資源学特別コース 梶島 千春
7. 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報	事務局 24
8. 本部便り	事務局 25
9. 賛助金および寄付者のご芳名	事務局 28
10. 役員名簿・会計報告	事務局 29
11. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則	32
12. 編集後記	遠城 道雄

## 魚水誌第73号第1回編集会議開催

昨年から新型コロナ禍の中、多くの学校行事、同窓会活動が中止される中、年2回発行される同窓会誌魚水の第73号の第1回編集会議が令和3年(2021)5月19日(水)に3密を避ける為に距離を置いて、水産学部大会議室で編集委員の皆様が仕事や授業が終わる午後5時半から約3時間、夜遅くまで開催しました。

編集委員には記事や編集が偏らないように学内、学外に限らず80代から女性委員5名、二十歳前後の学生委員3名を含めて23名がボランティアで頑張ってもらっています。

そして住所が判っている、入会金を納入している外国を含めて全会員や教職員はもちろん全学生に配布しています。現在交流のある北海道大学、東京海洋大学、下関水産大学校、長崎大学、宮崎大学、鹿児島大学各学部などにも配布しています。

記事は日本国内にとどまらずブラジル、キリバス、ハワイなど外国や全国の会員や学生などから募集しています。表紙も時々々のタイムリーな写真を採用しています。

これから何回も編集会議や校正を重ねてお盆前には皆様の元にお届けする予定です。



※令和3年(2021)6月現在の編集委員は

- 学外編集委員 荒牧 孝行 (36増)、長友 統 (39製)、黒木 克宣 (41製)、岩元 善巳 (46漁)  
鬼丸 久徳 (47漁)、門脇 秀策 (49増、51院)、山岡 耕作 (49増)  
本山 興二 (50経)、吉原 芳文 (55資)、田邊 修 (57航)  
田中 安曇 (H12漁)、赤塚 麻美 (H28食資)
- 学内編集委員 安楽 和彦 (H3漁)、石川 学 (H3化、H5院)、鳥居 亨司 (H8社)  
國司 恵美子 (H18資)、松岡 翠 (H18資)
- 学生編集委員 八藤丸 雅也 (院2年)、今村 和貴 (院1年)、小笠原 慶悟 (院1年)
- 事務局 辻口 忠男 (43経)、和合 理恵子  
(敬称略)

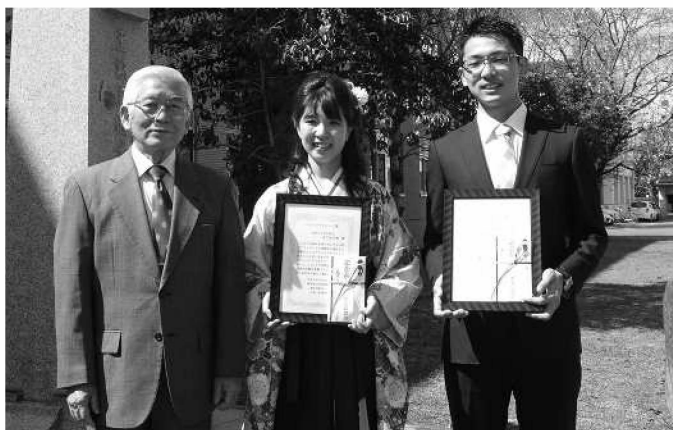


## 共同獣医学部紫友同窓会

### 1. ベストクラスメート賞

本年度は32名の卒業生が巣立って行きました。厳しい社会情勢のなか、彼らがこれからの獣医療界を牽引する活躍を見せてくれることを期待しています。

例年卒業式当日の午後に行われる学部の学位記授与式において、同窓会としてベストクラスメート賞を授与してきました。本賞は卒業までの6年間にクラスのまとめ役を熱心に行った男女会員1名を表彰するものです。今年度も授与式は中止されましたので、受賞者の藤澤朋也、岩下朋乃樺の両氏には事務局に来ていただき、新納会長から賞状と記念品が手渡されました。



左から新納会長、岩下朋乃樺さん、藤澤朋也君

なお、卒業式当日の夜に学部と共催して開催する予定で準備を進めていた卒業記念パーティーは、新型コロナウイルス感染症予防のために今年度も中止となりました。

### 2. 新入生の入会歓迎

4月2日（金）に開催された新入生オリエンテーションで、会長が入学を祝し同窓会への入会を歓迎する挨拶をしました。その中で資料に基づいて同窓会の沿革やこれまでの学部への支援活動を説明し、今後も学部や学生支援を継続していくことを述べました。また、新入生に対しては充実した学生生活を過ごしてもらいたいことと同窓会活動への積極的な参加と協力を期待する旨の言葉がありました。



新入生を前に挨拶する新納会長

### 3. 事務局会議

5月27日（木）に学部内で会長同席のもと事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。その中で、新型コロナウイルスの感染症の予防対策の観点から今年度も評議員会は書面会議とすることが確認されました。

## ▶特別寄稿文◀

### 江口正純鹿児島大学同窓会連合会名誉会長を悼む 母校の「進取の精神」基金に貢献 名社長、テニス常勝、造士館講座を主宰

昭和34年文理学部社会学科卒 高嶺 欽一  
(造士館講座運営委員 元南日本新聞社)

#### ◇南国殖産(株)に入社、社長を務める

江口正純さんが、2021年（令和3年）2月20日、87歳を最期に生を終えられた。生涯を通じてソフトテニスを続け、ゴルフにも堪能の頑健な体の持ち主だったが、ふとしたすきを病魔に見せて、付け込まれた印象がある。ご当人も想定外のことだったに違いない。もっともご健在でいてほしい方だった。

鹿児島大学法文学部同窓会並びに鹿児島大学同窓会連合会の会長を長期にわたって務め、さらには大学のさらなる発展に資する目的の「鹿大進取の精神支援基金」支援会の重鎮として、広く浄財を募る活動に中心的役割を果たされた。集まった支援金は2億8,800万円に上る。これは鹿大の開学以来の快挙とあってよからう。

江口さんは1934年（昭和9年）1月、台湾の基隆市に生まれ、日本の敗戦でお父上の出身地・鹿児島県東市来町に引き揚げ、青年期を東市来で過ごした。そして県立伊集院高校から鹿児島大学文理学部（現在は法文学部）社会学科に進み、1959年（昭和34年）に卒業、当時は就職難だったが、地元の南国殖産(株)に入社した。（まったくの余談だが、この頃の南国グループではバス事業の南国交通が花形で、オレはバスに行きたかったんだ……と親しい同期生に笑いながら話したことがある。）

入社後、南国殖産は急速に発展していく。日本経済が高度成長期を迎えて「奇跡の成長」を続けていった時代でもあり、同社は主な業態である建設資材やガソリンなどの燃料の需要の大きな拡大等をバネに業績を伸ばし、鹿児島県というまでもなく、広く九州でも屈指の企業に急成長していった。その中で江口さんは中核的社員として頭角を現し、1974年（昭和49年）に建材部次長、1977年（昭和52年）に取締役昇進、1978年（昭和53年）には取締役建材部長に就いて、会社の要の部署のリーダーになった。その後も常務取締役、専務取締役を務め、1999年（平成11年）には副社長に、そして翌2000年（平成12年）に代表取締役社長に就任した。

その間、関連会社の生コンクリート株式会社数社、自動車販売のトヨタビスタ鹿児島（のちにネットヨタ南九州に改名）などの取締役を兼務した。経営者としての力量を高く買われての人事だ。これ以外にも鹿児島の商工経済界をはじめ多方面での分野で主要な役割を担い、活躍された。

#### ◇軟式庭球のヒーロー…鹿児島国体で「完全優勝」

江口正純さんを語るのに「軟庭」を抜きにはできない。今ではソフトテニスと呼ぶが、江口さんはこの競技を軟式庭球とっていた時代のスーパーヒーローだった。

競技歴は実に華々しい。鹿大の学生時代に九州の大学大会で優勝、学業をサボったわけではないが、ほとんど軟庭中心とっていい学生生活を送っていた。試合ではとにかく負けない。優勝したのは何回？と尋ねたことがあるが「さあ」が返事だった。1971年（昭和46年）には全日本社会人大会成年の部で優勝を飾った。この年には西日本大会、九州大会でも王者になり、南日本スポーツ賞、読売スポーツ賞を贈られた。

国民体育大会（国体）に県代表で出場すること17回（選手で12回、県選手団の監督として5回）。

国体での実績を挙げると、筆頭は1972年（昭和47年）に地元開催の鹿児島国体で達成した「完全優勝」だろう。鹿児島県軟式庭球選手団は、江口監督のもと、高校男子・同女子・一般男子・同女子・教員の5部門すべてで優勝したのだ。これは軟庭の国体史上初の快挙で、この実績は現在でも達成した都道府県はなく、今も燦然と輝いている。ご本人も完全優勝を「偉業」とっていた。

「偉業」達成のために県軟式庭球連盟が実施した選手強化対策を、江口監督は他県の選手の移入はせず「純血」で臨む、中学生を強化する（男女20人を選抜し繰り返し合宿訓練）などの方針を掲げ実行し、これが功を奏して「偉業」を達成したのだった。名監督の見事な采配であった。

ちなみに江口さんご家族は「テニス一家」と呼ばれ、お父上の純雄さん、弟の英雄さんと組んで、県の親子選手権、兄弟選手権で数回優勝を果たしている。

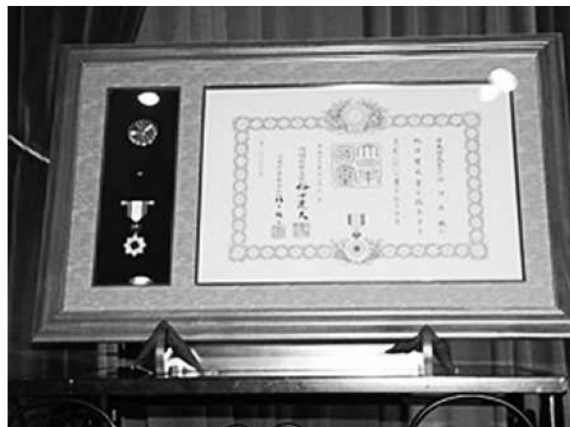
#### ◇全国藩校サミットを主宰、造士館講座を運営

鹿児島市に「造士館講座」と銘打った独特の市民講座がある。2006年(平成18年)に開講し、15年が経過した。講座は「論語講読」と「もっと鹿児島を知ろう」講座の2本立てで、月に各1回ずつ鹿児島大学で実施している。江口さんは開講当初からこれにも携わり、運営委員長として講座をリードしてきた。鹿大との連携にも力を注ぎ、その結果として講座は大学の社会活動の一環に位置付けられて現在に至っている。

造士館講座の運営組織は、途方もないことを手掛けて成功を収めた。

「全国藩校サミット」という催しがある。名は古めかしいが、島津藩をはじめ全国の「殿さま」の血を引く旧藩主たちが一堂に集まって、藩政時代の青少年教育の優れた面を現代に生かしていこうという趣旨の催しだ。年に1回持ちまわりで開催されている。2013年(平成25年)に鹿児島市で第11回大会が開催され、これを造士館講座の運営組織が主宰し運営したのだ。それまでの開催地では、市役所などの行政が実施主体になって開催されていたが、鹿児島ではそのような前例にとらわれずに、造士館講座運営委員会だけで準備から大会運営まで全てを担った。結果は大成功で「鹿児島方式」と評価された。

この大会開催の指揮を執ったのが江口さんだった。実施計画立案、指示、判断すべてに自ら当たった。それには南国殖産を率いた経営経験が大いに発揮された。「さすがは社長」と皆がうなずいたことだった。



## ▶特別寄稿文◀

### 『為御覧 薩州大隅蕎麦店東西秋冬巡業百撰』

法文学部同窓会副会長・鹿児島大学特任専門員  
原口 一陽（法文学部法学科昭和58年卒）

蕎麦のお話を一つ。3年前東京に住んでいた。江戸の三大蕎麦といわれるのが、藪、砂場、更科。みなさまご存じ、神田「かんだ やぶそば」、虎ノ門「大阪屋虎ノ門 砂場」、南千住「砂場総本家（南千住砂場）」、麻布十番「信州更科蕎麦處総本家 永坂更科布屋太兵衛」、同じく麻布十番「総本家 更科堀井」がその系譜を繋いでいる。ほかにも竹やぶ系、一茶庵系など実力派の系列も。名店は枚挙にいとまない。

鹿児島でも、私は妻と2015年から3年、県内の蕎麦番付を作っていた。『為御覧 薩州大隅蕎麦店東西秋冬巡業百撰』。春夏、秋冬版に分け蕎麦本体の旨さとこだわりを番付にして5版を重ねた。「新川橋六角堂」と号し（現隅田川六角堂）、家内「伊勢や藤七」と二人、休日には県内を駆け巡った。その数400余店、延べ千食を超えた。

きっかけは、2015年4月に寄った谷山（山田）の「石臼挽き十割蕎麦 手打百藝比良」さん。「信州大西流手打そば」で、その表現力に圧倒された。ここから蕎麦との出逢いを求めた旅が始まった。東西の大関、出水「石臼挽きの十割蕎麦 綱祥庵（ぐしょうあん）」や天文館「御手打ちそば 天神房丸新」さんなど、数々の名店との出逢いは私の宝になった。

差し上げた番付は各版60枚ほど。SNSなどにも一切上げず、蕎麦好きの方々に楽しんでいただいた。当時、番付に添えた注釈の一節がある。「鹿児島は日本でも有数の蕎麦の産地です。10年ほど前までは北海道に次いで2番目でしたが、最近では地方での休耕が進み、平成25年の都道府県別蕎麦収穫量は北海道、長野、茨城、福島、山形、栃木に次いで7位となっています。収量もですが、実は鹿児島には多彩な蕎麦があります。鹿児島の伝統的な『田舎そば』は蕎麦粉10割に自然薯（山芋）をつなぎにして手打ちした風味豊かな蕎麦です。ダシも鰹節や昆布、椎茸のほか鯖節や焼き鮎、鶏ガラなど個性豊かです。現在も地方を中心に多くの蕎麦店がこうした田舎そばを提供しています。ほかにも蕎麦粉全量（10割）で水以外つなぎを一切使わないそば打ちの技を駆使した蕎麦や、いわゆる二八そばに真っ白な更科そば、江戸前や信州蕎麦を出すお店も多くあります」。令和元年はさらに収量が落ち込み、10位と順位を下げている。

実は、蕎麦への好奇心が高じて、大学への着任直前のひと月、横浜元町でお店を構えていた一茶庵に住み込みで江戸蕎麦修業に出掛けた。一茶庵は「蕎麦聖」片倉康雄先生が95年前に東京新宿で創業、現在その孫の英統先生が指導にあたっておられる。「達磨」「翁」の名人高橋邦弘氏も同門だ。

関東醤油のヒゲタ醤油にマンジョウ本みりん、上白糖だけの「返し」。だしも枕崎産の本枯節のみで取る。仕上がった掛け汁は西日本ではなじみがない真っ黒なお汁。ざる汁も、もちろん辛い。そばは北海道磯谷産や茨木産常陸秋蕎麦など。1日3回、合わせて一人3、4kgの蕎麦を打つ。木鉢から延し、包丁の流れで1回を20分強で打ち上げる。せいろ粉、田舎粉、白雪粉と打ち分けるときもある。白雪には抹茶や芥子の実、柚子など打ち込み、変わり蕎麦としても仕上げた。鹿児島での私の蕎麦会では桜切り、シナモン切りといった変わり種も披露している。ここで使う蕎麦包丁は特徴的。ご覧になった方もおられると思うが、私が使っているのは刃渡り36cm、まさに小ぶりのギロチンのようだ。

取り留めのない話になった。コロナ下、蕎麦会も長いこと控えていたが、先日感染対策を講じ小さな会を開いた。懸念なく江戸蕎麦を楽しんでいただける日が待ち遠しい。（隅田川六角堂/「蕎麦切り壺与う」主宰）



『為御覧 薩州大隅蕎麦店東西秋冬巡業百撰』  
第5版（2016/7/1版）

## ▶特別寄稿文◀

### ビートルズ「Let It Be」に思う

医学部長 橋口照人

私がビートルズの Let It Be を初めて聴いたのは中学校 1 年生の時であった。思春期に入ったばかりの自分にあの旋律が響いた。ある時、歌詞の意味が知りたくなった。日本語訳の歌詞を読んだ。「悲しみに暮れている時、マリア様はいつも近くに現れてささやいてくださる・・・」の部分はすんなりと理解できた。しかし「なすがままに」と訳された肝心の「Let It Be」の意味がしっくりこなかった。別の訳をみた。今度は「Let It Be」が「なんとかなるさ」と訳されていた。やはりしっくりこない。『マリア様が「なんとかなるさ」なんて言うわけじゃないか』とさえ思った。・・・そして、今、分かる気がするのである、Let It Be は「大丈夫ですよ」の意味ではないか。

悲しみに暮れている時、マリア様はいつも近くに現れてささやいてくださる。「大丈夫ですよ」と。

「大丈夫ですよ」と患者さんにかかる言葉の重さに相応しい人間になりたいと思う。(マリア様のようになれずとも)せめて患者さんの前だけでも、人格者(立派な人間)になりたいと思う。「ならばどうすれば良いか」と考えるうち「教養とは何か」と自問した。マリア様なら何とおっしゃるだろうとも思った。「教養」に一番近い言葉は「思いやり」ではないかと(今のところ)思っている。

ある日の外来の折、患者さんに病状説明を行った。次の外来でお会いした時、患者さんが次のように話された。『自分はクラシック音楽が好きです。先生から病気の話を伺った夜、自分の一番好きな指揮者のベートーヴェンの「運命」を聴きました。曲の調べに合わせて、これまでの自分の人生が整理されてきました。先生、もう「大丈夫ですよ」』その時、自分にとって患者さんは先生だった。

これまで患者さんから多くの教示をいただいた。90歳半ばの患者さんに「お元気で何よりですね」と話すと「私が元気に見えますか？4人子供を産んで3人見送りました」とおっしゃった方がいた。生きること自体、試練だと思った。「今日は母の命日なので、一日ゆっくり母を思い出しながら過ごしています」とおっしゃった自分より年配の女性の患者さんがいた。外来が終わったあと、亡くなった自分の母を思い出していた。「良い音楽は誰が聴いても良いですよ。自分の耳を信じなさい」とおっしゃった音楽の先生がいた。それから自分の耳を信じるようになった。患者さんが感動したという他県の美術館のゴッホの絵を見に行きたいと思っている。

研修医の頃「研究心をもって診療にあたること」と度々指導された。確かにそれは大切なことだと思う。しかし今は「大切なことは、ただただ患者さんを診ることである」と思っている。研究心の涵養はそれが出来た上でのことである。我々の病院は(好ましいことではないが)近くの診察室の医師の声が聞こえてくることがある。その診察の様子から(自科、他科を問わず)陰ながら尊敬している先輩、後輩が沢山いる職場で働いていることを幸せに思う。我々は医師としての「生き方」を選んだのである。

## ▶特別寄稿文◀

### コロナ禍で遠隔授業が始まった

歯学部同窓会副会長 佐藤友昭

2020年から始まったコロナ禍で私がみて、感じた現場の現状を書きたいと思います。

#### 1. Zoom や動画配信による遠隔授業について、その評判と効果は？

昨年度の共通教育や当学部によるアンケートによると、学生達はこのような授業形態を好み、概ね評判が良いようでした。前半期に行われた共通教育の説明会でも他の先生達からも学生による好評価、授業の進行にそれほど支障があるとする報告や遠隔授業に対する批判的な意見、感想を聞いた記憶がありません。普段から授業に接している一教員として、現在の学生気質を考えると“さもありなん”とその時は納得致しました。しかしながら年度末に情報を収集してみると、どうもこれら配信型の授業は、何度も見直して授業内容を理解したいという学生に対しては相性が良いようですが、そうでない学生に対しては、教員が動画上で要求する課題や小テスト対応に精一杯になりがちで、学問的興味誘発が生じない（気が回らない）こととともに、未対応課題が少しずつ蓄積して困った状況に陥る場合になることがあったようです。対面講義では複数の受講学生達の誰かが、教員の授業中における課題解決のヒントに気づき、回りの学友に情報発信して皆で解決することができたことが、遠隔授業では学友との理解感覚の認識確認や情報発信の機微を対面のように行うことができなかったのではないかと思います。実際、歯学部ではこれまで経験したことのない科目で、経験したことのない留年者数を出した学年もあります。もちろん、教師側、私自身も、遠隔授業を対面のように行っているつもりで…、授業時には同じように課題解決に対するヒントや情報をちりばめているつもりでしたが…。レポート課題については、こちらの思うような掘り下げた考察を行なっているのは少なかったと思っております。さらに、歯学部は国家試験で多選択肢問題が課されるため、少なからずこのような小テスト課題を教師側も出題するのですが、これに対しては、対面時に行うよりも正答率が高いとの感想を持ちました（しっかりとしたデータ解析をしている訳ではありません）。解釈として、学生達が正解を選択する学習課題（答えのある問題）についてのみに対応する能力をつけているだけの結果であり、色々な情報を検索して、考察をめぐらし、仮説を立てる（つまり、答えのない問題に対応する）ことが不得意になっているのではないかと考えます。そのような事ですと、高校生の勉強と変わりが無いわけで、学生達は課題をクリアしたという満足感と達成感の割には自分が思っているほど成長していなかったという事になります。予め解答が決まっている問題に対する解決能力は、課題に対する情報検索、整理、考察の過程で体得し得るものと思うのですが、その過程を惜しむのか、課題が多すぎて対応できなかったのか…。得られた情報からは、昨年度の配信授業では目先の課題クリアが学生にとっては、目の目的となってしまう、深掘りして欲しい事に対しては思ったような成果が上がらない結果になったと、自分の理解に落とし込むこととなりました。私自身としても配信型の授業に対しては、もう二工夫くらい必要に感じております。

#### 2. 配信型授業が始まった時の率直な思い

正直言って私はこれまで大学（学校）というものは、キャンパスがあつて設置定員が決まっていて、校地条件や附属施設が必要なのだと思っておりました（勿論、今でも思っております…）。例えば、大学設置基準の第34条には、“校地は、教育にふさわしい環境をもち、校舎の敷地には、学生が休息その他に利用するのに適当な空地を有するものとする。”とありますよね？コロナ禍で「遠隔授業を！」「配信型授業は学生に評判が良い、授業効率が良い」と言われたときは、「？※？\$！#！…」、「LECリーガルマインド大学がメディア（配信型）授業で評判が悪かったと、つい先日のように聞いていたのですけど？…、キャンパスって要らないのか？…」、そして自省して、「価値観についていけてない？…老兵は去るのみ？…」と思いましたが、直後も歯学部は対面授業を重視しましたし、大学も文科省も対面授業を奨励している現状にあります。取りあえず配信型が苦肉の策と大学は認識していると理解しております。ただし、配信型は学生さん達とは非常に相性の良い面も見られますし、歯学部のように国家試験合格率を重視する場合は学生さんサイドからの対策講義等の要求に始まり、配信型への鞍替えのシナリオになることも無いとも言えないと思っております。コロナ禍後、どちらの要求が高まるのか私には分かりませんが、日本人としてあらゆる場面での能力向上を考えるなら対面講義に重きを置く人達が多くあることを願うばかりです。

## ▶特別寄稿文◀

### 鹿大ラグビー部、もうひとつの全国大会で準優勝 = 第71回全国地区対抗大学ラグビー大会 =

鹿児島大学ラグビー部OB会東日本支部会長  
吉村秀清（昭和47年農学部農学科卒業）

2019年のラグビーワールドカップ日本大会で日本代表はベスト8に進出する活躍で一気に国内でラグビー熱が高まりました。私が学生の頃は海外のチームに勝つということは夢のまた夢という状況でしたので隔世の感がしております。

#### 鹿大は3年連続18回出場、そして創部70周年

大学ラグビーには二つの全国大会があります。一般的に知られている大会は早稲田大や明治大が活躍する「全国大学選手権」です。この大会が全国の大学ラグビーの頂点を競う場です。そしてもう一つの全国大会が「全国地区対抗大学ラグビー大会」といいます。昔は、大学選手権への登竜門として位置付けられていました。そのため、現在は強豪チームである帝京大学、東海大学などもこの大会を経験しています。今年は第71回を迎えましたので大変歴史のある大会でもあります。



第71回全国地区対抗大学大会（名古屋みずほラグビー場）で準優勝した鹿大ラグビー部（2021. 1. 6）

鹿児島大学は、全国地区対抗大学ラグビー大会に臨み、初戦は、最多出場を誇る松山大学に56対7で圧勝し、準決勝は昨年度の優勝校である東京学芸大学に21対19と辛勝。決勝戦は関西リーグの強豪校の大阪体育大学に挑みましたが14対71と敗れ準優勝でした。

鹿児島大学ラグビー部の創部は昭和25年（1950年）で、つまり新制大学の創設の翌年に発足し、昨年、創部70周年を迎えました。これまで全国地区対抗大学ラグビー大会には18回出場しています。このなかで2回の優勝、3回の準優勝という実績を収めています。昭和39年には東洋大学を破って初優勝を果たし、2回目の優勝は昭和42

年でした。国立大学でこれだけの実績を積み上げているところは筑波大学を除いて他にはありません。それだけに文武両道を目指す本学チームの評価は高いものがあります。また、普段の練習やチーム運営には学生が主体となって取り組んでいることも自慢できることです。

#### トップリーグでも活躍

また、日本ラグビーの最高峰である「トップリーグ」でも、中尾隼太君（平成28年卒、東芝ブレイブルーパス、ジャパンセブンス代表）と下山翔平君（平成25年卒、宗像サニックスブルース・2020年度現役引退・現在スタッフ、元U20日本代表）の2名が活躍しており、この3月に卒業し九州電力でトップリーグを目指す中島謙君もいます。

プレーヤ以外でも、全国レベルのレフリーを輩出しています。辻原潤一郎氏、蒲牟田卓氏はトップレベルのA級の公認レフリーとして活躍しています。

また、ラグビーの指導者では、松久保六男氏（神奈川県日本大学藤沢高校元監督）、前田豊彦氏（兵庫県報徳学園元監督、平成4年物故）、近年ではジャパン代表の中村亮土君らを育てた永田眞一郎氏（鹿児島実

業高校前監督)などの他、高校、大学等の多くの指導者を輩出してきました。また、クラブチームの振興に尽力した元山泰秀氏も日本ラグビーを陰で支えてきた初期のOBです。経済界ではリコー副社長やコカ・コーラウエストジャパン社長・会長を務め日本ラグビーの発展に貢献した久保長氏(平成30年物故)、医学界では鹿大医学部名誉教授でリハビリの権威者である川平和美氏がいます。

## 重大事故の発生

70年の歴史の中で楽しいことばかりではありませんでした。昭和43年11月の九州インカレ大会(長崎市)で、スクラムを組んだ瞬間に当時2年生だった北迫正治さんが頸椎損傷のダメージを受け、首から下が麻痺となりました。直ちに長崎大学医学部付属病院に入院し、かろうじて一命だけは取り止めました。数か月後に鹿児島県の方々や長崎県、熊本県のご支援によって救急車のリレーで鹿児島県まで搬送してもらいました。その後は寝たきりの状態が続き、北迫さんが前向きになるまでは数年を要しましたが、本人の努力と周囲の支援によって、講演活動、PCを使った文章の作成、口に筆をくわえて描く絵画作成などを行うまでとなって、その姿は多くの人々に感銘を与えてきました。残念ながら平成23年5月に63歳で亡くなりましたが、鹿児島県の医療関係者やOB会がこの間、北迫さんを支援したことはラグビーの絆を示した誇るべきことだと思っております。特に、鹿児島在住のOBが日々、お世話を頂いたことに対して本当に頭が下がる思いでした。



## 鹿児島大学ラグビー部のOBとして誇りと感謝を

私たちOBは、現在でも現役チームやトップリーグで活躍しているOBの試合動向に一喜一憂しています。鹿児島大学での4年間のラグビー部現役生活の経験は実は4年間に収まっておらず、卒業から今に至るまでことあるごとに私たちの人生を支えてくれています。辛いことがあっても、厳しい練習に比べればと耐えることができました。また、当時の仲間とは会えば昔の気持ちになって付き合えます。

こうした思いができることを幸せと思いますし、だからこそ、現役諸君が厳しい環境の中で脈々と鹿児島大学ラグビー部の火を消すことなく活動を続けてくれていることに感謝しています。そして、本連合同窓会の皆様方にはラグビーに少しでも関心をもってください、応援して頂ければ幸いです。

(元筑波大学人文・文化学群教員)



# 鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

## 鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580  
鹿児島市郡元1-21-24  
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係  
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854  
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544  
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1  
鹿児島大学歯学部内  
鹿児島大学歯学部同窓会事務局  
TEL・FAX 099-264-1600  
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

## 鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-30  
鹿児島大学法文学部同窓会事務局  
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573  
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-40  
鹿児島大学工学部同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-3494  
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

## 鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
鹿児島大学教育学部事務局内  
TEL・FAX 099-285-7718  
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-24  
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-8537  
e-mail aratakai@mc2.seikyoku.ne.jp

## 鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-35  
鹿児島大学理学部同窓会事務局  
TEL 099-285-8925  
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056  
鹿児島市下荒田4-50-20  
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局  
TEL・FAX 099-286-4080  
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075  
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局  
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784  
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

## 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-21-24  
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局  
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)  
e-mail k2088185@kadai.jp

## 鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24  
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係  
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854  
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷  
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21  
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100  
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

